

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 10 No.8 2008年4月30日号

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2008 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

パナソニック コミュニケーションズ、一般電話とIPに対応した音声会議端末発売



IP音声会議ホン KX-NT700N

2008年4月
パナソニック コミュニケーションズ(株)

パナソニック コミュニケーションズ株式会社(福岡県福岡市)は、一般電話回線とIP回線に対応したIP音声会議フォン「KX-NT700N」を4月28日より販売開始した。

パナソニック コミュニケーションズでは、会議用スピーカーフォンとしては、既に一般電話回線向けの「KX-TS730JPS」や株式会社ウィルコム の PHS 通信モジュールに対応した「KX-TS745JP」を販売しているが、KX-NT700N では、背景既存の製品の性能を向上させるために、要望の多かった、雑音のカットによる音声品質の向上のほか、新たに社内LAN回線や3拠点会議、同時に話しても頭切れしない全二重通話などにも対応した。

「従来は、一般電話回線が敷設されている会議室か、一般電話回線がない場合には、専用の PHS 端末や超小型通信モジュールを使用しなければ、会議用スピーカーフォンの利用ができなかった。本製品は、一般電話に加え IP 回線も利用できるので、今まで以上にさまざまな場所で音声会議を行うことができる。また IP 回線を利用すれば通話料金の削減ができる。」(パナソニック コミュニケーションズ)

音声多地点には、音声ミキシング機能を搭載しているため、多地点接続装置や音声会議サービスを別途利用しなくても3拠点までの多地点会議が行える。「例えば、本社と支社で IP 回線を利用して本製品での会話中に、一般電話回線経由で出先の担当者に電話して3拠点間での会議を行うということが簡単にできるので便利だ。」(パナソニック コミュニケーションズ)

音声会議では、音の品質は重要であるが、KX-NT700Nには、そのためのさまざまな音声処理技術を投入している。音声帯域は7KHzに対応。本体4隅に配置された指向性の異なるマイクアレイが全方位から拾う音声の差分を検知・制御してスピーカーからの音の回り込みを削減することや、マイク毎の適応アルゴリズムやフィルターによるエコーキャンセルを行うことで、頭切れしないスムーズな全二重双方向通話や360度全方向の音声をムラなく集音することが可能になっている。

また、送られてきた音声の母音部と子音部を区別して、会話中の息継ぎなどの無音部を縮めて母音部を延ばすことなどにより、会話がゆっくりと再生される「リアルタイム話速変換機能」や、周囲の雑音を減少させる独自の「ノイズリダクション機能」などで自然な会議が行えると同社では説明している。

その他では、PoE(パワー・オーバー・イーサネット)、音声会議の内容を録音・保存できるSDメモリーカードスロットやパソコン画面上から設定や操作が行える専用ソフトを提供している。

PoEは、100V AC電源がなくとも、PoEの給電機能を搭載したLAN集線装置と接続すればLANから本体への電源供給ができる機能。

SDメモリーカードスロットに録音した音声会議は、音声データとしてKX-NT700Nで再生できるほか、パソコンでも

再生ができる。この音声データを会議出席者にファイルデータとして配布することで、音声議事録として活用することができる。録音時間は、64MBのSDメモリーカードの場合は約2時間、2MBのSDメモリーカードの場合は約67時間の録音が可能という。KX-NT700N本体では、2GBまで対応。

専用ソフトについては、そのソフトをインストールしたパソコンとKX-NT700Nを接続することでパソコンの画面上からKX-NT700Nを操作することができるもの。画面上には、操作パネルが表示されるが、接続先のIPアドレスの入力、ミュートや音量の設定などが行える。大きな会議機の中央にKX-NT700Nを置いて会議をする場合などでも手許で操作ができる利点がある。

KX-NT700Nの希望小売価格は、158,000円(税別)。月産台数は、500台を見込んでいる。

オプションには、別売の外部マイク「KT-TCA174JP」を提供している。より広範囲の集音の用途に対応している。

ポリコムジャパン、普及型HDビデオ会議システムを日本国内発売



Polycom HDX 7000--カメラ、リモコン、マイクはHDX 9000およびHDX 8000シリーズと同一。

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、Polycom HDXシリーズに新たに「Polycom HDX 7000」を追加したことを発表。Polycom HDXシリーズは、HDXのプラットフォーム

で設計されており、「Polycom HDX 9000」や「Polycom HDX 8000」に比べ機能を絞って低価格したモデル。

「Polycom HDXシリーズは、HD Video、HD Voice、HD Contentにより音声、映像コミュニケーションに究極のリアリティをエンドツーエンドで提供するUltimateHDプラットフォームを採用したシステム。HD同士だけでなく既存の非HD対応ビデオ会議ソリューションやユニファイド・コミュニケーションとの相互運用が可能だ。Polycom HDX 7000シリーズはその最高の技術を投入した低コストで導入が可能なHD対応のシステムだ。HDビデオ会議システムのさらなる普及を目指したいと考えている。」(ポリコムジャパン)

	HDX 7001/7002	HDX 7001/7002 XL	HDX 7001/7002 XLP
EagleEye HD カメラ	標準	標準	標準
HDX マイクフォン	標準(1個)	標準(1個)	標準(1個)
4拠点多地点 接続	オプション	オプション	標準
People+Content IP機能	オプション	標準	標準
セカンドモニター 機能	オプション	標準	標準
Quad BRI モジュール	オプション	オプション	オプション
PRI/T1モジュール	オプション	オプション	オプション

*ポリコムジャパン資料より作成。

カメラ、リモコン、マイクは、Polycom HDX 9000 及び Polycom HDX 8000 シリーズと同一のものを採用している。本体は縦置き、横置き自在に設置が可能。

またこのPolycom HDXシリーズは、IPネットワークでのパケットロス発生に対してエラー補正する機能を強化したPolycom LPRテクノロジーを採用している。その特長として

は、ポリコムジャパンは以下のように説明する。(1)5パーセント以下のパケットロスでのパフォーマンスが特に強力となっている。(2)フォワードエラーコレクション(Forward Error Correction)機能により紛失したデータを修復する。(3)音声、画像、H.239 規格対応コンテンツを含むビデオ会議のデータをパケットロスから保護する。

HD に対応したモデルは、Polycom HDX 7002 で、SD 対応モデルは、Polycom HDX 7001 になる。Polycom HDX 7002 のメーカー小売価格は、155 万円(税別)から、Polycom HDX 7001 は、123 万 2000 円(税別)からとなっている。4 月 1 日よりポリコムの認定販売代理店を通じて販売している。

ポリコムジャパン、Polycom RSS 2000 パーバージョン 3.0 を発表

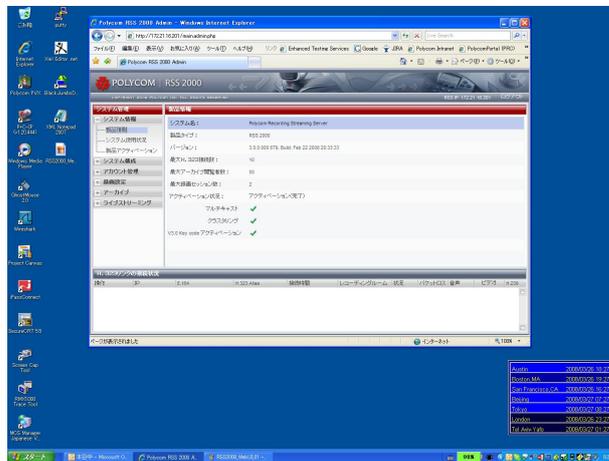
ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、会議レコーディングソリューションの新バージョン「Polycom RSS 2000 バージョン 3.0」による機能強化を発表した。

Polycom RSS 2000 は、ビデオ会議によるプレゼンテーションやトレーニングなどのマルチメディアコンテンツを簡単に録画、ストリーミングできるようにしたソリューション。ビデオ会議での人物画像とコンテンツの同期を行った上でレコーディングし配信する特徴がある。またポリコムのビデオ会議システムの他業界標準(H.323)に対応したビデオ会議システムに対応する。

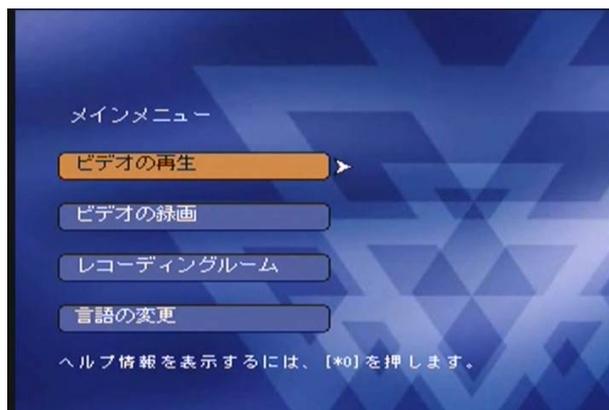
今回のバージョン 3.0 で強化された機能としては、(1)マルチキャストに対応することでストリーミングによるネットワーク負荷を軽減する。(2)オンスクリーン UI(ユーザーインタフェース)と Web UI が日本語に対応。(3)UltimateHD に対応。アスペクト比 16:9 の HD 映像と HD コンテンツに加えて、22Khz 音声の Siren 22 に対応。

オンスクリーン UI とは、ビデオ会議システム端末から Polycom RSS 2000 に接続した際に表示されるメニュー画面で、ビデオ会議システムの画面上に表示されるメニューに従って Polycom RSS 2000 で会議の録画や再生を簡単に行える。一方、Web UI は、Web ブラウザーで、Polycom RSS 2000

にアクセスして、Polycom RSS 2000 をコントロールするためのインターフェイス。「日本語に対応したことでより直感的に操作できるようになった。」(ポリコムジャパン)



RSS 2000 のシステム画面



ビデオ会議端末から RSS 2000 に接続した時に表示されるメニュー画面

Polycom RSS 2000 のメーカー希望小売価格は、285 万円(税別)から。今回のバージョン 3.0 は、保守契約期間中のユーザには無償で提供。

メディアプラス、H.323/SIP 対応 Web 会議システム ソフトウェア MCU と日本語対応を発表

株式会社メディアプラス(東京都千代田区)は、H.323 対応 Web 会議システム「Avisar C3 シリーズ」における機能追加と日本語バージョンの追加を発表した。Avisar C3

シリーズは、米 Avistar Communications Corporation が開発、メディアプラスは、アビスター社の日本正規販売代理店。

「Avistar C3シリーズは、H.323/SIPテレビ会議システム専用端末との互換性を最大の特徴としている。現在ご使用のデスクトップ PC はもちろん、外出先のノートパソコンからでもすぐに高画質の映像による Web 会議を簡単に行うことができる。」(メディアプラス)

機能追加については、ソフトウェア MCU 機能とファイアーウォール・トラバーサル機能を追加した。

ソフトウェア MCU では最大 4 地点までの多地点接続に対応。「ソフトウェア MCU 機能は、これまで別ハードウェアを使用しなくては不可能だった多地点接続機能が完全にソフトウェアのみで動作する。低コストで高品質なカンファレンス環境を求めるユーザのコスト負担を軽減するものだ。」(メディアプラス)

またもうひとつは、ファイアーウォール・トラバーサル機能だ。イントラネットとインターネット間で H.323 テレビ会議を行う場合ファイアーウォールが導入時の課題になる。そのファイアーウォールをテレビ会議の通話がファイアーウォール自体に影響を与えずに通過できるようにするための機能になる。

そして今回機能追加に合わせて、Avistar C3 シリーズは、日本語にも対応する。この日本語対応は、日本、アジア地域の販売代理店となったメディアプラスの要請によって開発された。

ジャパンメディアシステムの Web 会議機能強化、H.264/MPEG-4AVC やメディア再生機能、資料共有機能など強化

ジャパンメディアシステム株式会社(東京都千代田区)は、同社の Web 会議システム「LiveOn(ライブオン)」Ver6.0 ASP 版と Ver6.0i イントラパック版を 4 月 27 日から販売開始した。また ASP 版の 1 ライセンスあたりの基本月額使用料を 3,150 円(税込)に改定する。

LiveOn は、Microsoft Internet Explorer(マイクロソフト・イン

ターネット・エクスプローラー)上で動作し、URL にアクセスするだけで Web 会議を簡単に始められるというシステム。音声と映像の送受信のトラフィックを常に監視し、自動的に最適なデータ量を検出して通信を行うところに特長がある。

今回のバージョンアップで搭載された新機能は以下の通り。(1)映像コーデック「H.264/MPEG-4AVC」に対応。既存の Motion-JPEG に加え新たに追加。設定画面から Motion-JPEG と H.264/MPEG-4AVC の切り替えが可能。(2)メディア再生機能強化。スロー再生、コマ送り、コマ戻し機能を追加。(3)資料共有の機能強化。資料共有画面をキャプチャし、ホワイトボードに貼り付ける機能を追加。(4)ホワイトボードの機能強化。ホワイトボードの背景にグリッド線の表示機能を追加(但し、印刷には反映されるが、保存には反映されない。)。テキスト入力の Unicode 対応。(5)エコー除去機能(Acoustic Echo Canceller)の On/Off 切り替え(設定画面)を追加。Windows XP のみ対応。(6)会議室リスト検索機能を追加。会議室リストの絞り込みのための任意の検索条件や並べ替えのためのソート機能付き。(7)オプション機能(ASP 版のみ有効)。多人数モード、スケジュール機能、アプリケーション共有機能をオプション機能として用意。(8)帯域管理機能(イントラパック版のみ有効)。AdminTool から、LiveOn システム全体、各ユーザの使用帯域を制限する機能や会議中の使用帯域のモニタリングが可能。

アイ・ティー・テレコム of Web 会議サービスバージョンアップ、H.264/MPEG-4AVC やメディア再生機能、資料共有機能など強化

アイ・ティー・テレコム株式会社(東京都港区)は、Web 会議サービス「MORA Video Conference Ver6.0(ASP モデル)、Ver6.0i(サーバ導入モデル)」を 4 月 27 日から販売開始した。また ASP 版の 1 ライセンスあたりの基本月額使用料を 3,150 円(税込)に改定する。

アイ・ティー・テレコム of Web 会議サービスは、MORA

Video Conference は、ジャパンメディアシステムの LiveOn をベースに開発しており、ASPサービスとサーバ導入モデルの2パターンを提供している。また Web 会議に必要な音響映像機器の手配・サポートをはじめ、B フレッツ/ADSL の手配、その他既存サービスとの組み合わせなど、ユーザ窓口の一本化やユーザニーズに対応したカスタマイズができるソリューションサービスを提供するところに特長がある。



MORA Video Conference (モラ・ビデオ・カンファレンス)

今回のバージョンアップで搭載された新機能は以下の通り。(1)映像コーデック「H.264/MPEG-4AVC」に対応。(2)メディア再生機能強化。(3)資料共有の機能強化。(4)ホワイトボードの機能強化。(5)エコー除去機能(Acoustic Echo Canceller)の On/Off 切り替え(設定画面)を追加。(6)会議室リスト検索機能を追加。(7)オプション機能(ASP版のみ有効)。(8)帯域管理機能(イントラパック版のみ有効)。

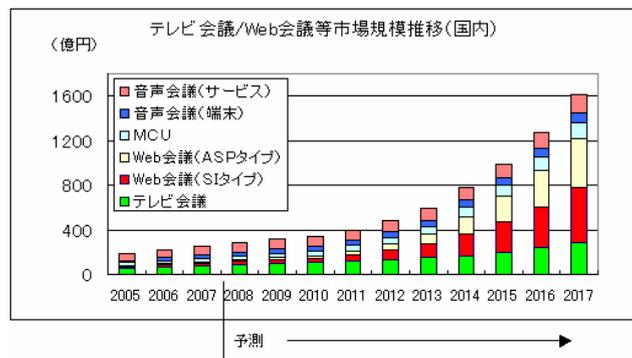
市場動向

シード・プランニング、業務用テレビ会議/Web 会議システムの市場動向と将来性を調査

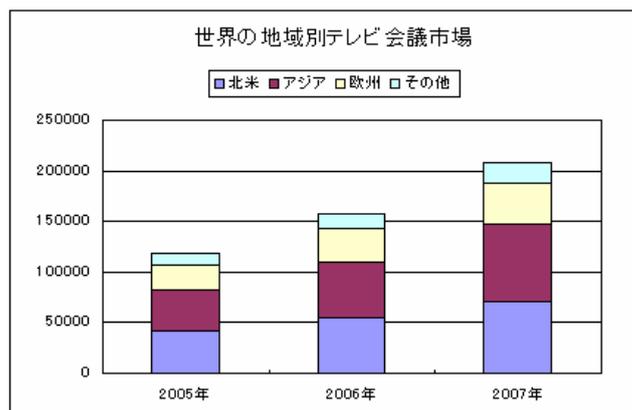
株式会社シード・プランニング(東京都台東区)は、業務用テレビ会議システム市場の動向調査を行い、調査研究レポート「2008年版 TV 会議/Web 会議の最新市場とHD化動向」(2008年3月)を発刊した。

本レポートでは、日本国内で業務用テレビ会議/Web 会議/音声会議メーカー、それらを販売するベンダー企業62社

を取材・調査し、世界市場と日本市場の現状と将来展望についてまとめた。また62社のうち48社は、各社の現在の取扱商品、サービス、テレビ会議への取り組み、市場性、ユーザ動向、それに将来展望に対する各社の見方をまとめた。



上グラフ：シード・プランニング調査データ1



(シード・プランニング調べ)

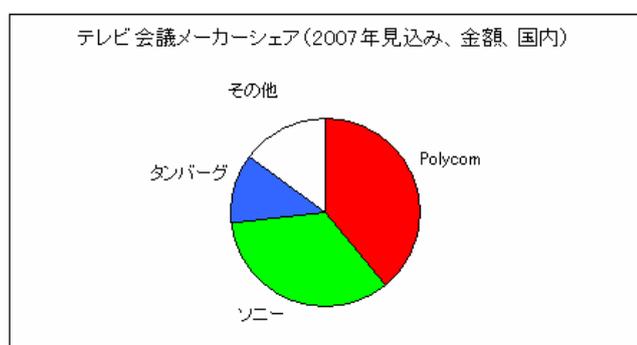
上グラフ：シード・プランニング調査データ2

2005年のテレビ会議、Web 会議、音声会議システムの国内市場は、191 億円(シード・プランニング調査データ1を参照)だった。その中で、テレビ会議製品(専用端末)と音声会議サービスの割合(合計65%)が大きくWeb 会議は、全体の9%を占める程度であったが、2012年にはそれが28%になり、Web 会議が専用端末タイプのテレビ会議とほぼ同じ市場規模になると予測した。

日本国内の専用端末タイプテレビ会議市場は、2000年には38億円だったが、2007年見込では85億円に達する。一方世界市場(シード・プランニング調査データ2を参照)

は、同じく2007年見込では日本市場の約15倍の1270億円。世界市場での日本市場の割合は、6%だった。中国市場は、欧州と日本の市場の伸びを越えて市場成長率が高く北米に次いで世界第二位の規模の市場になっており、世界市場全体の成長を牽引していると同社では分析している。

世界市場でのメーカーシェアは、台数ベースでは、ポリコム、金額ベースでは、タンバークとなっている。一方日本市場(シード・プランニング調査データ3を参照)では、ポリコムが台数ベース、金額ベースともにシェア1位を維持しているが、2006年から2007年にかけてソニーは、シェアを伸ばしている。



上グラフ：シード・プランニング調査データ3

日本市場でのSIタイプとASPタイプの動向については、売上金額ベースで、2006年はSIタイプが約64%、一方ASPタイプは約36%の割合であった。それが2007年ではSIタイプ約62%に対し、ASPタイプ約38%となり、両者の差は、徐々に狭まりつつあるようだ。今後もこの傾向は続き両者の差は狭まって行くと同社では分析する。

シード・プランニングでは2003年から毎年、テレビ会議(専用端末タイプ)/Web会議(SIタイプ/ASPタイプ)/音声会議(端末/音声会議サービス)の調査を行っている。

セミナー・展示会情報

情報通信設備展ビジネスコミュニケーション

東京 2008

日時:5月22日-23日

会場:池袋サンシャインシティ文化会館3F

主催:株式会社リックテレコム

月刊テレコミュニケーション編集部

中小企業のIT入門マガジン「COMPASS」編集企画室

詳細:<http://www.ric.co.jp/expo/bct/index.html>

*ユニファイド・コミュニケーションやWeb会議システム関連のセミナーセッションや展示もあり。

ZDNet Japan スペシャル

ZDNet Japan (<http://japan.zdnet.com/>) スペシャルで2月7日より「進化するテレビ会議」特集が始まりました。その中で、橋本もコラムを何回か書かせていただくことになりました。よろしければご覧いただければ幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

進化するテレビ会議

<http://japan.zdnet.com/sp/feature/visualcomm/>

- (10) --ウェブエックス:実務者の共同作業に適したウェブ会議(4月24日)
- (9) データ共有でメリット活かすウェブ会議システム(4月10日)
- (8) 導入しやすくなってきた会議システム(4月3日)
- (7) 単純には進まなかった会議システムのIP化(3月27日)
- (6) アエストラ:通信機器のノウハウ活かす会議システム(3月19日)
- (5) タンバーク:業務を革新させるビデオ会議システム(3月10日)
- (4) ポリコム:会議の質を変えるHD対応からテレプレゼンスへ(2月29日)
- (3) NTTアイティ:会議システムは業務改善ツール(2月21日)
- (2) ビジュアルコミュニケーションの歴史(2月14日)
- (1) ホウレンソウと遠隔会議システムの深い関係(2月7日)

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

セミナー・展示会情報は随時アップデートしていますので、よろしければ<http://cnar.jp>のセミナー・展示会情報をご覧いただければと存じます。

CNAレポート・ジャパン 代表 橋本 啓介